

病害虫発生予察指導情報  
(ブロッコリー黒すす病 No. 1)

令和元年5月16日  
鳥取県病害虫防除所

1 情報の内容

5月中旬現在、ブロッコリー黒すす病は、前年と比べて少ない発生量となっています。葉の病斑は、花蕾への伝染源となるため、ほ場の観察を行い、適期防除に努めて下さい。

2 情報の根拠

- (1) 5月中旬現在、県中西部巡回調査園における本病の発生ほ場率は20.0%  
(前年：90.0%)、発病株率は0.8% (前年：12.4%) と、前年と比べて発生量は少ない。
- (2) 本病は、25℃付近が発病適温で、降雨と強風により発病が助長される。向こう1か月の気象予報から、本病の発生量は平年並と予想される。

3 防除上注意すべき事項

- (1) 葉の病斑は、花蕾への伝染源となるため、ほ場の観察を行い、発病が認められる場合は、出蕾前防除を徹底する。
- (2) 薬剤はアミスター20フロアブル、アフェットフロアブル、シグナムWDG、パレード20フロアブル等を使用する。また、薬剤耐性菌の発生を最小限に抑えるため、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布する。